校長室だより
NO.　５０
令和２年２月13日

すべては光る

梅園小学校長
たか　す　りょうへい
高　須　亮　平

本年度も体力・運動能力テスト男女で全国平均を上回る

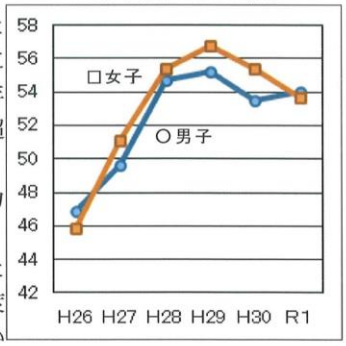
今年度の６月に、例年と同じように体力・運動能力調査を行いました。一般的に言われている「スポーツテスト」です。その中で、毎年、スポーツ庁が小学校５年生、中学校２年生を抽出学年として、そのデータを分析して「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」として発表しています。今年度の全国の結果は、小・中学生の男女ともに低下し、小・中学生ともに女子よりも男子の方が大きく低下し、特に小学生男子は過去最低の数値ということでした。本校の５年生のデータが整理されて届きましたのでお知らせします。

各項目別の本校5年生のデータ(T得点)

	男　子	女　子
身長	48.5	47.9
体重	47.6	47.3
握力	53.4	50.7
上体起こし	55.7	53.0
長座体前屈	55.3	54.1
反復横跳び	49.6	50.1
20mシャトルラン	51.9	52.4
50m走	51.0	47.4
立ち幅跳び	53.2	52.5
ソフトボール投げ	49.2	52.3
体力合計点	54.0	53.7

本校の今年度のデータは右表のようです。表内の数字はＴ得点と言い、全国平均を５０、標準偏差を１０として正規分布になるように変換した得点で、偏差値と同じような意味です。だから、Ｔ得点が５０より大きくなればなるほど、全国的に優れているということです。本校の得点は、男女ともに身長・体重が全国平均以下でありますが、全８種目のうちほとんどが全国平均を上回っています（右表の網掛け部分）。男子で「反復横跳び」「ソフトボール投げ」、女子で「５０ｍ走」がやや下回っていたくらいでした。このことは、とてもうれしく感じています。子どもたちのがんばりとともに、その指導も確かであったことを感じます。

体力合計点の推移
※全国平均を50としたT得点



また、Ｔ得点で経年変化も見ることができます。右のグラフは、平成２６年度からの本校の合計得点（平均）の推移を表したものです。平成２６年度は男女ともに全国平均以下でしたが、平成２７年度より徐々に上向いてきました。そして、平成２８・２９・３０年度は多少の変動はありますが、全国平均を安定して超えることができています。

この調査については、子どもの身体にかかわる体力的なことですし、本校の子どもの体格（身長・体重）の数値が全国に比べ低かったので、数値を上げることはかなり難しいことと思っていました。実際、本年度も身長・体重ともに全国平均を下回っています。しかし、体育の授業や体育的行事、部活動等で、子どもたちの取り組みを工夫できるようにするなど、視点をもって指導を工夫してきた効果が数値となって見られています。まさに「やればできる」ことが分かります。

運動習慣調査の結果　（項目は全国平均との違いの顕著なもの、p:ポイント）

	男子	女子		男子	女子
①　運動・スポーツを行って楽しいと感じたのはどんなときか？					
・上手にできたとき	+11.5p	+ 7.5p	・教えてもらってできたとき	+13.8p	+ 4.7p
・教えてもらって分かったとき	+ 9.5p	+12.7p	・大人にほめられたとき	+ 7.4p	+ 7.9p
・友達にほめられたとき	+14.4p	+18.9p	・上手な人と活動したとき	+13.8p	+11.8p
・体を動かしてスッキリしたとき	+14.4p	+20.6p			
②　体育の授業で、できなかったことができるようになったきっかけ・理由は何か？					
・先生にコツを教えてもらった	+15.6p	+ 3.1p	・自分で工夫した	+ 9.2p	+11.5p
・先生や友達のまねをした	+10.8p	+ 7.7p	・友達に教えてもらった	+16.6p	+ 8.0p
・授業外、先生に教えてもらった	+ 9.6p	+ 9.3p	・授業外、自分で練習した	+11.8p	+ 4.0p
・授業外、本や動画を見た	+25.7p	+ 4.2p			
③　体育の授業は楽しいか　（「楽しい」の回答）				+13.0p	− 6.0p
④　体育の授業で目標をもっているか　（「もっている」の回答）				+24.1p	+23.8p
⑤　体育の授業で内容を振り返る活動をしているか　（「している」の回答）				+17.0p	+29.1p
⑥　体育の授業で話し合う活動をしているか　（「している」の回答）				+ 9.0p	+ 6.4p
⑦　体育の授業で学んだことを授業以外に行ってみようと思うか　（「思う」の回答」）				+15.4p	+12.1p
⑧　体力テストの結果や体力の向上について目標を立てているか　（「いる」の回答）				+ 7.8p	+13.9p
⑨　ものごとを最後までやってうれしかったことがあるか　（「ある」の回答）				+10.2p	+ 3.8p
⑩　自分にはよいところがある　（「ある」の回答）				+23.5p	+21.7p

次に、子どもの意識調査について、とてもよい結果を示しています。これが、体格を補っていたことが分かります。全国平均を顕著に上回っている項目が、上の表です。これは、子どもが運動ができるようになっていくための手立てを考える上でのヒントを表していて、今後の体育の授業のあり方の参考になる面があります。

まず、①「運動を行って楽しいとき」について、ほとんどが全国平均を１０ポイント程度上回っています。ここで気付くことは、他者との関わりのあるとき、また他者から認められたときに「楽しい」と感じています。同様なことが②「できるようになった理由」についても言えます。しかし、男女差も見られます。どちらかと言いますと、男子の方が他者に向けて求めてできるようにしようとしているようです。「本や動画を見た」の男子の数値は顕著です。そのことが③「体育の授業は楽しい」につながっていると考えられます。女子が平均以下となっていることは注意が必要です。

また、体育の授業について、④「目標」⑤「振り返り」の数値が高いことが、学習を充実させ、運動能力を伸ばしているようです。そのため、このような手立ては効果的であることが分かります。そのためか、⑦のように学習成果を他のことに役立てようとしています。これは、体育の授業は意味があることを表しています。

最後に、⑩「自分によいところがある」の数値が全国平均と比べて、男女ともに顕著に高い状態で、とてもうれしく感じます。まさに自己肯定感を育てることに重点に指導を続けている本校にとって、その教育活動の成果を感じます。

このように調査結果と意識調査を関連させますと、体力・運動能力についての今後の指導の方向性が見えてきます。それらを基に、体育の授業のあり方を改善し、さらに向上を図る手立てを探っていきたいと考えます。